



サッカー部 善戦する。

先週の27日(土)、28日(日)。一足先に、サッカー部の高校総体が行われました。1回戦 対下松工業線を3-0で勝利し、2回戦は、対山口高校。私も応援に行きました。

試合は、残念ながら0-3で敗れてしまいましたが、全国大会に何度も出場経験がある強豪校を相手に、前半は、0-0の互角、いえ、本校が押し気味の展開。後半に失点を重ねても、フェアプレイで、最後まであきらめない、実にさわやかな戦いぶりでした。強豪相手にも臆せず、果敢に挑む本校生徒の姿をととても誇らしく感じました。

さて、今週末は、多くの部で、高校総体が始まります。3年生にとっては、最後の大会になる部活動もあることでしょう。3年生は、これまで、好きなことに取り組むことができた、周りの方々に感謝しながら、悔いを残さぬよう、最後の1分、1秒まで全力を尽くしてください。そして、3年生と一緒に試合に出場する1,2年生は、そんな3年生の想いをしっかりと、受け止めがんばってください。



勝負事において、勝つことは非常に大事です。勝つことによって、やる気が生まれてくるし、チームのまとまりも生まれてきます。どのチームも勝つために練習をしてきたのです。ましてや、最後の大会となると勝ちたいに決まっています。

でも、ちょっと考えてみてください。トーナメントの場合、**1回も負けずに大会を終えるチームは、たった1チームなのです。その1チームを除く全てのチームが必ず負けてその大会を終わります。しかも、負ける回数は、みんな同じ1回だけ。**

その1回の負け方が非常に大事だと思っています。どんなに点差が離れていても、「私たちは最後までがんばったのだ。この試合のためにやるだけのことはやった。」のだと、悔いの残らない、でも、思い出に残る。美しく、すがすがしい負け方をしたいと思います。

本日開催！粟野川流域ホタル観察会

先輩方が準備してくださっています。もう少し参加者が増えるといいかなと思います。

当日参加でもかまいません。交通手段がない場合、保護者の送迎が困難な場合は、学校から送迎しますので、ご相談ください。

日時：2017年5月30日(火) 午後7:30~8:30 (集合時間：午後7:30 (時間厳守))

観察地：豊北町上畑付近 案内：藤岡達雄 (つのしま自然館整理解説員)

集合場所 県道435号 ブルーライン・バス停「五千原」から豊田方面50メートルの旧田耕タクシー広場 (付近に目印を出します)。

解散時間 午後8:30 集合場所が解散場所となります。

参加人数 生徒10名程度と保護者の方々 (生徒が参加する場合は、保護者が車で送迎をお願いします。保護者の方々もどうぞ観察会にご参加ください。)

参加費 一人100円 (資料代) 服装等 夜間歩きやすい服装で。

吹奏楽部、ボランティア研究会のみなさんと、はまゆう園大運動会に参加しました。 (5月27日(土))



はまゆう園は、知的障害のある方々の生活支援など、障害福祉事業を展開しておられる施設で、本校の生徒も度々ボランティアとして、その活動に参加しています。

豊北体育センターで開催されたこの度の大運動会は、園生、家族会、来賓の方々など多くの方の参加により盛大に開催されました。

なんとと言っても驚いたのが、ボランティアの方々への参加の多さです。豊北総合支所、商工会青年部、ライオンズクラブ、ジュニアリーダークラブ、そして豊北中、豊北高校など200人近くいたのではないのでしょうか。障害のある方を地域ぐるみで支えている。温かい地域を実感することができました。



多くのボランティアの中でも、北高生の活躍は、中学生の活躍とともに、その場にいた多くの人たちの印象に残ったものと思われます。本校吹奏楽部の生演奏で始まる入場行進には、ご来賓として参加された前田下関市長さんも驚いておられましたし、運営に汗を流すボランティア研究会のみなさんの姿に来賓席からも感心の声がたくさん聞こえました。私も仮装行列で「女領主 直虎」のお姫様の役を豊北中の内田校長先生と一緒に演じさせていただき、とてもさわやかで楽しい一日でした。

何よりも嬉しかったのが、閉会式の際のご挨拶の中で、中・高校生の活躍にふれていただいたときです。「中学生、高校生の姿にこの町の明るい未来を感じた」というお言葉です。人口減少と高齢化が進むこの町にあって、中学生や高校生の元気な姿は町に元気を与えます。しかし、この言葉は、障害のある方と手に手を取り合って笑顔で競技に取り組む生徒たちの姿のことを指していたのだと気がついたのは、帰りの車中でした。こんなにも温かい心をもった今の中学生や高校生が大人になって創り上げる地域社会に大きな希望をもたれたようです。



今、県や市では、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害のある方が、積極的に参加・貢献していくことができる「共生社会」に向けた取組を進めています。誰もが相互に人格と個性を尊重しあう「共生社会」の実現のためには、障害のある人と障害のない人がお互いに理解し合うことが大切です。学校現場でも、障害のある方と障害のない方が共に学ぶ仕組みである「インクルーシブ教育システム」の構築に向けた取組が進められています。私たち教員もそのことについて勉強していますが、生徒たちの姿の改めてその大切さを実感しました。

生徒のみなさんには、是非、自分の「できること」を「しなければならないこと」と考えられる大人になって欲しいと願っています。

私には、障害のある親族がいます。父は、6人兄弟なのですが、3人に障害があり、私も一緒に生活しながら、私の叔父、叔母に当たる彼らを、私の祖父や祖母、父や母は、本当に大切に暮らしている姿を側で見えてきました。私の祖父母の時代です。戦後の貧しく、今のように、障害者に対する理解も社会福祉の制度も整っていない時代のことですので、祖父母も父母も大変だったことでしょう。

障害のある方とない方が、手に手を取り合って笑顔で過ごす今日の運動会の様子を祖母が見たらどんな感想をもつのでしょうか。

その祖母が他界する直前に、孫であり、長男である私に「和ちゃん。3人のことを頼むね」という言葉を残しました。私にとっては、久しぶりに慈愛に満ちた祖母の笑顔を思い出した一日にもなりました。